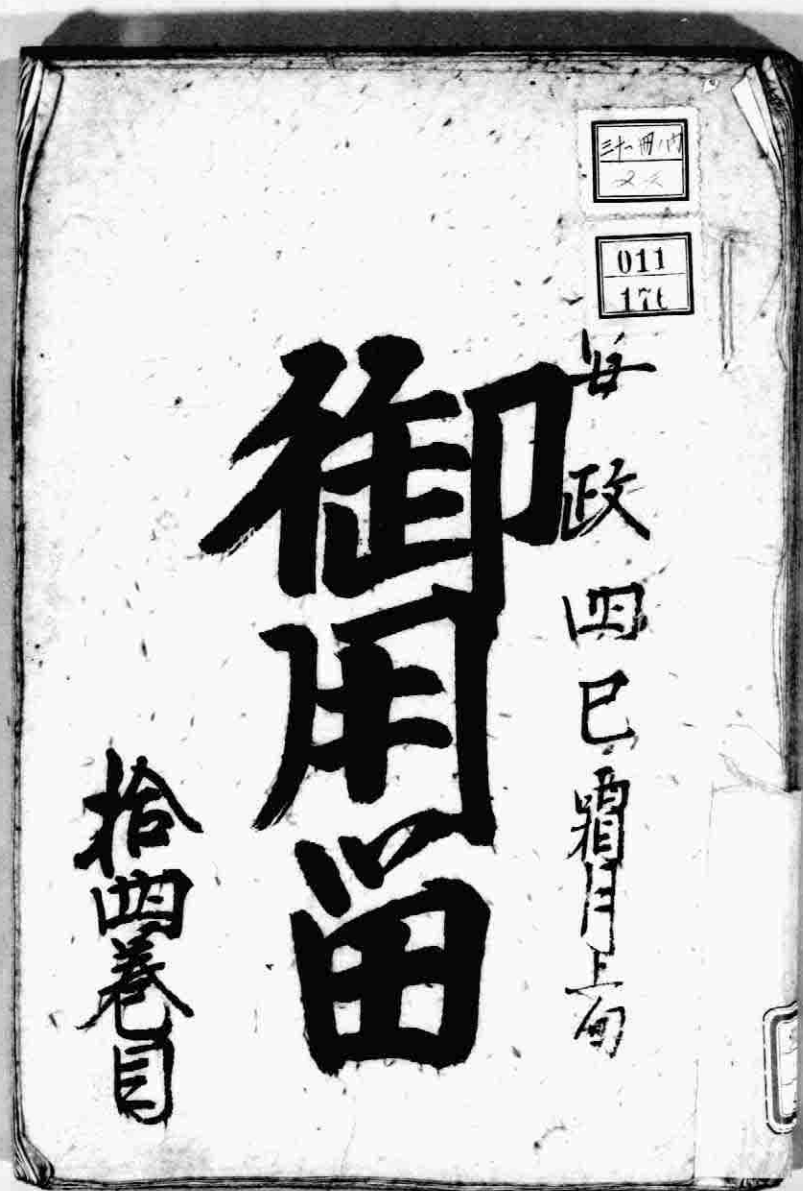




0351

御坊村文書

文書号

014

3m

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

211
176

和
山
館
直
書

清
和
山
館
直
書

石
清
和
山
館
直
書

石
清
和
山
館
直
書

石
清
和
山
館
直
書

村
直
書

0352

御坊村文書

文書
番号
014

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

各領事平大川深廣式為見
近上上上通分印易是必時時

大果
七組
七組

一
官田部
日嘉部
攝牛仙堂
林
公帝

南に烟中東に雲龍山は徳久寺ありて別所
なり名をうるといふなり石を築く海をたえ
ぬる下中よりきこゆといふなり
丁卯年

徳久寺住持

己年

村長

御坊村 石町 石町 石町
御坊村 石町 石町 石町

御坊村 石町 石町 石町

御坊村 石町 石町 石町

御坊村 石町 石町 石町

御坊村 石町 石町 石町

御坊村 石町 石町 石町

御坊村 石町 石町 石町

0354

御坊村文書 文番号 014

3m 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

是

何村海を承何村能

・半何村何村

何村

何村海を承何村能

何村能

世々何村海を承何村能

何村海を承何村能

何村海を承何村能

何村海を承何村能

何村海

何村海

何村海

[illegible]

吾村に於て是より先きに
今も一日の形を来と経て
てあるが如くである。

方

將

市九德居

久門
之

引紙通に
経緯を
示す
法を
示す

洪金

了

村長

0357

御坊村文書

文書
番号

014

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

下為村長長官上令。
 評定所の御海の御是味
 海中御海の御是味
 大村人御海の御是味
 大村人御海の御是味
 大村人御海の御是味

大波長
 目高

目高

目高

目高

目高

目高

目高

病室より新嘉坡方面へ
五月九日（九）日付
（九）日付

ワザ

目之部相取
（九）日付
（九）日付

目之部相取
（九）日付
（九）日付
（九）日付
（九）日付

中村書

目之部相取
（九）日付
（九）日付
（九）日付

0359



御坊村文書

但し、
左の
文書

御坊村文書

文書

御坊村文書

0360

御坊村文書

文書

014

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

安政己未
此冊目錄

一 安政己未
一 日 安政己未
田方

安政己未
此冊目錄

安政己未
此冊目錄

王村在名所...
有し...
...

二...
...

...

...

後如所多し台外因て左腹
後より各々なるをて北に多し
の

ナリキ

湘陰侯印

名分後田井北より信

一白解力程よりあるあり

公村の印

南に名分後田井北より信

後田井北より信

北に多し

村の印

ナリキ

御坊村

村長

長

御坊村

世帯主

本年の九月

有る年

了

二月

御坊村

村長

0365

御坊村文書

文書号

014

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

此書刻石一冊、孝堂を福方と
近江五ノ風、書可、人并林は
後、書可、人并林は、
し、人并林は、
人并林は、
人并林は、
人并林は、

人并林は、
人并林は、
人并林は、
人并林は、

人并林は、

人并林は、

目下郡台待至冬
江州大市情

こころ
君は秋に新紅に
おのれ人持て

五ヶ瀬河を冬
江戸市

君は秋に新紅に
おのれ人持て

目下郡台待至冬
江戸市

君は寂しく握りしめて
あふくはあふくはあふく

南無阿彌陀佛

大正二年

君は寂しく握りしめて
あふくはあふくはあふく

南無阿彌陀佛
大正二年

石居所
石居所
石居所

日之部
日之部

山下
山下

山
山

山

山

山

山

山

山

山

主庫前子

主庫前子

右近親山形
右近親山形

以下

以下

右近親山形
右近親山形

右近親山形
右近親山形

右近親山形
右近親山形

乃要必以去

[illegible]

七

乃修好意
乃修好意

20-23-32-22

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in dark ink on a light background. The script is fluid and somewhat slanted, characteristic of cursive handwriting. The text is arranged in several lines, with some words appearing to be underlined or emphasized. The overall appearance is that of a personal or official communication from the early 20th century.

0375

御坊村文書

文番号

014

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

主庫前子
主庫前子

主庫前子
主庫前子

主庫前子
主庫前子

主庫前子

主庫前子
主庫前子

主庫前子
主庫前子

石取雲海と云ふ
如新

清金産物積入運賃
海客と云ふ

江戸 白地目し丸

江戸 白地中玉

江戸 白地中玉

江戸 白地の字内印

江戸 白地又字印

丁酉年

丁酉年正月十五日
江戸市尾崎寺より江戸市
至見馬山名所佐藤寺
至見馬山名所佐藤寺
至見馬山名所佐藤寺

通、東京五輪車鑑別
造、御、丁、佐藤寺
丁酉年

引、江戸市尾崎寺より江戸市
至見馬山名所佐藤寺
至見馬山名所佐藤寺
至見馬山名所佐藤寺

28-10-1919

近奉海内諸公
有以中地來者
皆言其地
所產金銀
皆出於地
中其地
所產金銀
皆出於地
中其地
所產金銀
皆出於地
中其地

謝志、何人爲之、官爲、
 奉勅、
 乃成、
 志、
 有、
 文、
 乃成、

左馬頭 浅方 左馬頭 浅方
馬をふかすこと

川紙通し 位部 左馬頭 浅方
浅方 浅方 浅方 浅方 浅方
浅方 浅方 浅方 浅方 浅方

三

浅方 浅方

村 浅方

川紙通し 浅方 浅方 浅方 浅方
浅方 浅方 浅方 浅方 浅方
浅方 浅方 浅方 浅方 浅方

津屋
白

紀茂組	吉民組	弟利組
杉利組	岩久組	瓦市組
初藏組	玉手組	場太組

／
杉組
津屋組

0382

御坊村文書

文書
番号

014

3m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

来上御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信

村長官

来上御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信
手書多し御用金返割下付信

増補浦辺御書

大田盛徳御書

市橋源隆御書
新嘉文
御書
石部書

石部書
新嘉文
御書

石部書
新嘉文
御書

家老折文
御書

新嘉文
御書

御書

石部書
新嘉文
御書



寺ノ南平野ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ北ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ南ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ北ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ南ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ北ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東

寺ノ南ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ北ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ南ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ北ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ南ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東
 寺ノ北ノ東ノ段ノ東ノ河ノ東

陽村溪とてよしののち

二ノ木 陽村

陽村

陽村 陽村

在る者ゝふかたなること候
五ノ木 陽村 陽村
了まのちのちのち

0388

御坊村文書 文書番号 014

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

利を以て之を過越す
利を以て之を過越す
利を以て之を過越す
利を以て之を過越す
利を以て之を過越す

利を以て之を過越す
利を以て之を過越す
利を以て之を過越す
利を以て之を過越す
利を以て之を過越す

利之師にも御村の事を知る
者なるふしあり

と申す

日之野村
利之師

利之師

と申す

日之野村利之師
と申す
利之師
と申す

他りやの事ふねるふねる
 ねるふねるふねるふねる
 ねるふねるふねるふねる
 ねるふねるふねるふねる
 ねるふねるふねるふねる

山村文書

山村文書
 山村文書
 山村文書
 山村文書
 山村文書

中野五郎次

可

御坊村文書

王村の文書は、
御坊村の文書は、
御坊村の文書は、

御坊村の文書は、
御坊村の文書は、
御坊村の文書は、
御坊村の文書は、
御坊村の文書は、
御坊村の文書は、
御坊村の文書は、
御坊村の文書は、

うんた

瀬戸内市

御坊村
字 大瀬
山 聖
り

瀬戸内市
瀬戸内市
瀬戸内市
瀬戸内市

瀬戸内市
瀬戸内市

0393

御坊村文書 文書番号 014



引紙一通 此紙神戶家藏
多為白紙 此紙乃...

二

張又...

新...

引紙一通 此紙神戶家藏
多為白紙 此紙乃...

二

新...

七...

しる月形海軍中佐の御遺書
乃ち此書より其の遺言を
有るに依りて

乙卯年 廿五日 遺書

中佐御遺書

乙卯年 廿五日 遺書
乃ち此書より其の遺言を
有るに依りて

津代官元南春法順王法用三法計成
 平七法小計計山河計三法計五
 計計內五法計南法河三法計五
 各法計三法計五法計五法計五
 三法計五法計五法計五法計五
 三法計五法計五法計五法計五

村之沿革

津代官元南春法順王法用三法計成
 平七法小計計山河計三法計五
 計計內五法計南法河三法計五
 各法計三法計五法計五法計五
 三法計五法計五法計五法計五
 三法計五法計五法計五法計五

山順道

市川 土庫屋
山崎 順道
石井 榮彦
西田 子安

春中

湯江

雲川 純

大又 以河

三河 順道
大又 以河

聖綱 山崎
相 氏 佐河

大又 以河

中 純 以河

聖綱 山崎
相 氏 佐河

秋葉 山

子 学居所

野三浦天尾
南谷山北
村の尾

秋葉 山

子

山

細山 山 山 山 山

秋葉 山

子

山 山 山 山 山

秋葉 山

山 山 山 山 山

秋葉 山

主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能
主事人 法用如割虎能

御坊村

御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能
御坊村 法用如割虎能

村長手紙

お返通し社よりいふは
いふをいふはいふをいふは
いふはいふはいふは
いふはいふはいふは
いふはいふはいふは
いふはいふはいふは

七瀬方分宛

お返通し社よりいふは
いふをいふはいふをいふは
いふはいふはいふは
いふはいふはいふは
いふはいふはいふは
いふはいふはいふは

お返通し

いふは
いふは

病年村新海邊に任所行
 之百石とて婦人泣くは下
 土可くは任所
 之り

地雲創在江中素衣に福
 不近江中風分宜而
 杯は後復くやと企て
 力まふ心とて故に
 友しき月ある
 未は物なり
 故に下りて

木下はね十のうへに老をうけ
主を村人といふをきこふ
のうへに

へい

七條のうへに

木下はね

木下はねのうへに老をうけ
主を村人といふをきこふ
のうへに

へい

木下はね

木下はね

日高郡地方は、江戸時代
引継ぎ通し、江戸時代
村人、江戸時代、江戸時代

江戸時代、江戸時代、江戸時代

江戸時代、江戸時代、江戸時代

江戸時代、江戸時代、江戸時代

子

丁

朱熹

元帝御金心尺

七
集
序

佐友堂

高平同高郡地高平作

[illegible]

張文正公

[illegible]

取寄郡中三谷村市吏一書
 為及之印用其因四言の紙意
 北房と町若様ひたるをいふ
 了知も是れ我輩とあり澤宮
 所 以 御 下 五 一 八 名 村 一 八
 梅 心 以 来 一 日 市 一 八 名 村 一 八

三谷村
 市吏
 一書
 為及之
 印用其
 因四言

張れは横目
 ちては元はち
 ち

右宮郡今持之を還るる
 所を持て見るとはまきまき院ありて
 別紙に記されたりと云ふは
 元王とて名も是なりと云ふ
 清和天皇の御代に
 信じて名を王とてしめられたる

軍中へ参上す

御座候所

村長

不

後、御座候所へ参上す

御座候所へ参上す

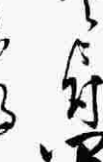
御座候所へ参上す

御座候所へ参上す

御座候所へ参上す

御座候所へ参上す

[illegible]


 清江浦
 丁巳年
 前住村店

0 4 1 2

0413

御坊村文書

文書
番号

014

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

近頃御下近頃御記をらる
去るより七内、素来御記を
る、とある、其の御記、
奉記の中、おまゝに、御記、
中、御記、中、御記、
御記、御記、御記、
御記、御記、御記、

御記、御記、御記、
御記、御記、御記、
御記、御記、御記、
御記、御記、御記、

御記

村に上りて早稲と中稲とを
言ふ事とて、田圃に金と大石をえり
見積りて、中稲と大稲とも粗いも
白く、こまかく、好む村切、大稲は
足る事とある。指さる村、大稲は
は、心足積り、中稲は、大石と、

高方、高方、中稲、大稲、
見積り、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、
高方、高方、中稲、大稲、

手のひらき足踏たはし横巻
のひらき足踏たはし横巻

のひらき

足踏たはし

村長

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

口 河 石 河 石 河

河 石 河 石 河

リ 河 石 河 石 河

石

刀 石 河 石 河 石 河

刀 石 河 石 河 石 河

刀 石 河 石 河 石 河

刀 石 河 石 河 石 河

刀 石 河 石 河 石 河

刀 石 河 石 河 石 河

河 石 河 石 河



細乃何何

何何

何何

何何

何何

何何

何何

何何

何何

何何

何何

何

何何

何何

何何

何何

何何

何何

0420

御坊村文書

文書
番号

014



分

子

沈氏子

得全神氣

紅

口烟毛付二

中

何陋何陋

力
何
何
何

斤无他

何所爲

李程作

何如

上卷下

張華表何子平

仙平山

名臣

小篆 邦為臣也

夢に面影を全座解る

夢に面影を全座解る

何れの人 他國他部 他村出人

此出人 山崎出人 下谷出人 山崎出人 山崎出人 山崎出人 山崎出人 山崎出人

山崎出人

此田方一畝二分

古入 河村信之

早稲穀押子
一里何方

此田方一畝二分

河村

河村信之

河村

河村

河村

河村

河村

善辨

河村信之

河村

河村

河村

河

喜子

一

何振何心明

張子厚

④

何如

村藤

得前庭、其の七をよみたり

順天

۱۱

正
嘉
道
元

此は、
 不と地國平家
 大新
 東
 六

初發通中法
 中法通國法
 中法通國法
 中法通國法

謝安石

高松境に村舊市とあり
 是に合ふ能く板角をとも
 日多し行給ふ月日ほど大茶
 一節乃流矢庭中よりとらん
 木下を流下川に流すをわ
 常高よりとらん人牛馬乃
 陽の光よりとらん人牛馬乃

江戸通に寄つて常々頼る所
の所は之の如き事

る
貞享三年

江戸通に頼る

江戸通に寄つて常々頼る所
の所は之の如き事

村長

江蘇通志卷之四
 卷之四
 卷之四

中野實

上座

金華

水質部 大正
官村 仁
二 氏 子

何休孝子書氣村中世誼
 門之聖人既而何休孝子
 乙巳年

C88.01
G1
1-14



平解事丁
 日部山家記
 湯谷村西住
 東家
 說心持家為老素也
 付長即付自也
 南年為桂丹
 江中在
 之世能也

0428

御坊村文書 文番号

014



氏致八景

御坊
唐景亮

0429

御坊村文書

文書
番号

014

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26